

グローバル・ガバナンス学会

第五回研究大会

(日本公益学会との共催)

開催ご案内

日時：2014年10月4日（土）10時～

会場：専修大学（神田キャンパス）

グローバル・ガバナンスと公益

情報・通信技術の革命的な発展を駆動因にして、グローバリゼーションの奔流は地球社会の隅々にまで行き渡ろうとしている。そのスピードは、時空を超えて人間生活のあらゆる側面に影響を及ぼし、それゆえに時には地球社会の格差化を促す要因ともなりかねない。地球社会の格差化が進行すればするほど、グローバル化に抗うナショナリズムやローカリズムの力学が増す傾向が強まりを見せるのは、グローバル化時代が生み出した一つの逆説といえようか。

それでは、こうした時代背景の下で「国際公益」追求の論理は萎えつつあるのかという問いかけが当然投げかけられよう。今では古典的用法となってしまった感のあるハイ・ポリティックス領域とロウ・ポリティックス領域に敢えて分ければ、核・非核兵器の軍備管理・軍縮というハイ・ポリティックスの争点は、人類の生存に関わる根本問題であるにも関わらず解決への道は未だ遠い。南北の経済・社会格差に象徴されるロウ・ポリティックスの争点にしても、「人間の安全保障」を脅かしてやまないほど南北間格差の拡大に拍車がかかる。このような傾向は、グローバリゼーションの趨勢が強まるほどに、ますます勢いを増していこう。冷戦終結後の宗教紛争やテロリズムの氾濫は、ハイ、ロウ、いずれの政治をも共時的に包み込む破壊的効果を帯びながら、国際公共財の基礎を蝕んできた。この現象を「国際公益」の破壊的要素の氾濫と言い換えてもよい。

「公益」という概念ほど、多様な解釈を生み出す概念はない。国際社会における「公益」とは何か、を問う場合でも同様である。ただ言えることのひとつは、「公益」概念は「公共財」の概念と重なり合い、国際社会においても「国際公共財」の概念に置き換えて「国際公益」概念を捉えることが可能であろう、ということである。しかし、国際システムの基本構造が国民国家体系として生きながらえる限り、「国際公益」をあらゆる政策領域で実現していくことほど困難な作業はない。好むと好まざるとにかかわらず、「主権」規範が国家の最後の砦として立ちはだかるからである。人類の共有すべき環境保全の規範が「主権」規範の前に翻弄されてきた気候変動枠組み条約締約国会議（COP）の歴史は、この点を見事に例証している。

第5回研究大会では、「公益」概念を改めて問い直し、グローバル・ガバナンスの有り様にどのように関わってくるかを論議する場とし、研究の深まりを模索する機会としたい。

今研究大会は日本公益学会との共催により実施することとなった。共催に快く応じていただいた日本公益学会に深く感謝するとともに、研究大会における共催の成果が共有されることを信じて疑わない。

グローバル・ガバナンス学会会長・山本武彦

第五回研究大会・プログラム

会 場：専修大学（神田キャンパス）

共通テーマ：グローバル・ガバナンスと公益

午前中の基調講演は、一般の方に参加費無料で開放いたします。
午後のセッションにつきまして、学会員は無料、一般の方は1000円、
学部学生は、学生証の提示を持って参加費無料といたします。

10:05-11:30 基調講演(日本公益学会との共催)

講演者：原丈人

（国連経済社会理事会政府間機関特命全権大使・アライアンス・フォーラム・財団代表理事-内閣府本府参与・経済財政諮問会議専門調査会 会長代理）

論 題：「公益資本主義の実現に向けて」

討論者：荒木義修（武蔵野大学）

福田耕治（早稲田大学）

司 会：松田憲忠（青山学院大学）

11:30-13:00 昼食

（今回は懇親会形式ではありません。懇親会は別途、当日の夕方 18:00 から開催されます。
昼食は各自で大学周辺でおとりください。）

13:00-13:30 総会

13:40-15:20 部会 I・II・III

部会 I. 「国際機構が中小国を再建／誕生させる方法」

国際機構が中小国の統治に深く関わることもある。冷戦後のカンボジア、ユーゴスラビア紛争後のコソボはその最たる例である。戦勝国による敗戦国への占領統治と異なり、国際機構による中小国の政治の再構成（再建）や独立支援（誕生）についてはまだ体系的な研究がなされていない。グローバル・ガバナンスの観点から中小国のガバナンスに国際機構がどのように関与してきたかを OSCE（欧州安保協力機構）の事例をもとに検討する。

報告者：玉井雅隆（立命館大学）

論 題：「マイノリティが主張する時－国家建設と OSCE の役割」

報告者：小山雅徳（同志社大学）

論 題：「欧州国際システムとコソヴォの国家建設」

討論者：杉浦功一（和洋女子大学）

司 会：宮脇昇（立命館大学）

部会Ⅱ Global Governance and Global Accountability

(英語セッション：通訳なし)

In the age of globalization, it is very important to consider not only international law but also global standards. Of course, international law is the core norm for our global society. In addition to the international law, we need global law in the age of globalization.

The concept of the international responsibility is the established theory of international law. For this theory, it is most important to examine state's responsibility.

In the age of the global governance, there are so many actors, not only nation state but also companies, non-governmental organizations (NGOs), transnational groups, ethnic groups, individuals and so on. We need to consider responsibilities of these multilateral actors.

In this session, we would like to discuss the concept of “accountability”.

There are two discussing points.

First, what the meaning of the concept of “accountability”? What the difference between the concept of “accountability” and that of “responsibility”. Traditionally, the concept of “accountability” is used as the legal meaning in the international court.

Second, can we pursuit accountability of non-state actors in the context of global activity? For the governance of global society, multilateral actors need to be accountable for their activities. How and what can multilateral actors be accountable?

In this session, we would like to discuss “accountability” in the age of global governance.

Speaker : Ikuyo Hasuo (Osaka University)

Theme : “The United Nations Security Council and Accountability (TBC) ”

Speaker : Takehiko Uemura (Yokohama City University)

Theme : "Global Accountability of Global Finance: from regulation to global tax and governance"

Speaker : Mariko Shoji (Keiai University)

Theme : “Global Accountability and the UN Norm : The UN Global Compact as the Global Norm (TBC) ”

Moderator & Discussant : Hajime Okusako (Waseda University)

部会Ⅲ：自由論題 (日本公益学会との共催)

自由論題部会は、共通論題と異なり、会員の日頃の研究成果を学会の研究大会の場で自由に報告していただく機会として設けられたものである。とくに本学会の若手研究者の研究発表の場として利用していただくと同時に、幅広くグローバル・ガバナンス概念に係る独創性の高い研究成果を報告していただくことを念頭において公募してきたものである。今大会では、2人の会員の方からそれぞれの問題関心にたった興味深いご報告をいただくことになった。

報告者：山内利夫（プライスウォーターハウスクーパース株式会社）

論 題：「欧州エネルギー市場におけるガバナンスと紛争予防
－1990年代以降の英国とポーランドを題材に－」

報告者：今村由衣子（早稲田大学）

論 題：「政策実施研究：待機児童解消政策の事例について」

討論者：富川尚（敬和学園大学）

渡部茂己（常磐大学）

司 会：菅英輝（京都外国語大学）

16:00- 17:45 シンポジウム「グローバル・ガバナンスと公益」

(日本公益学会との共催)

報告者：功刀達朗（国連大学サステナビリティ高等研究所）

論 題：「ガバナンスのパートナーシップに果たす行動規範の効用」

報告者：福田耕治（早稲田大学）

論 題：「成長・雇用・社会保障のグローバル・ガバナンス—格差問題から連帯と社会的包摂へ—」

報告者：大森 佐和（国際基督教大学）

論 題：「国際金融レジームのガバナンスと IMF」

討論者：首藤もと子（筑波大学）

司 会：山本武彦（早稲田大学）

18:00 懇親会(日本公益学会との共催)会費 5,000 円

(日本公益学会の会員の方は、日本公益学会の懇親会費のみお支払いいただけましたら、グローバル・ガバナンス学会の懇親会費は、お支払いいただく必要はありません。)

第五回 研究大会 会場・交通案内

会場：専修大学 神田キャンパス

〒101-8425 東京都千代田区神田神保町 3-8

会場へのアクセス



交通

- 水道橋駅（JR 中央・総武線）西口より徒歩 7 分
- 九段下駅（東京メトロ 東西線/半蔵門線、都営地下鉄新宿線）出口 5 より徒歩 3 分
- 神保町駅（東京メトロ 半蔵門線、都営地下鉄三田線/新宿線）出口 A2 より徒歩 3 分

* 大会のプログラムは、本学会のウェブページでも順次更新してご案内いたします。

<http://globalgovernance.jp/>

本学会のウェブサイトにて、参加申し込みが可能です。

*なお、当プログラムは 9 月 4 日時点の情報に基づいて作成されております。